Jean Michel Pilk Solo Piano

[Profile]

ジャン・ミシェル・ピルク　Jean-Michael Pilc（p)

1960 年パリ生まれ。
研究者としてロケット開発に携わっていたという異色の経歴を持つことでも知られるフランス人ピアニスト。彼は、独学でピアノの演奏を習得する。
1995 年にニューヨークに移住し、François Moutin (b) 、Ari Hoenig (ds) と共に自身のトリオを結成し活動を始める。'00 年に NY の "Sweet Basil" でライブ・レコーディングを行い、2 枚の CD をリリースする。
その後、Dreyfus Jaz と契約し「Welcome Home」「Cardinal Points」そして自身初のピアノ・ソロ「 Follow Me」のアルバムとトリオでの「Live at Iridium」「New Dreams」「True Story」をリリースする。
Motema Label に移籍後は、ライブレコーディングの「Essential」とトリオの名称を "Pilc Moutin Hoenig" として「Threedom」をリリースする。
'05 年、Sunnyside Records より 3 枚目のピアノソロアルバム「What Is This Thing Called?」をリリースする。
'09 年、チャップリンの作品から得たインスピレーションを元に新プロジェクト「Modern Lights」を、'13 年には、より自身の表現を深めるため、Octet「Big One」を立ち上げる。
Jazz に限らず音楽ディレクター、ピアニストとして Harry Belafonte とともにオペラ歌手 Jessye Norman と競演。
'06 年から現在まで、NYU Steinhardt、New School で後進の指導にあたる他、教則本「It's About Music - The Art and Heart of Improvisation」(Glen Lyon Books)、「True Jazz Improvisation」(JazzHeaven) 等も出版している。
現在まで、Roy Haynes、Michael Brecker、Dave Liebman、Jean Toussaint、Rick Margitza、Martial Solal、Michel Portal、Daniel Humair、Marcus Miller、Kenny Garrett、Lenny White、Chris Potter、John Abercrombie、Mingus Dynasty & Big Band、Lew Soloff、 Richard Bona 等多くの著名なミュージシャンと競演している。
現在、演奏活動の他カナダ / モントリオールの名門マギル大学で准教授として後進の指導にもあたっている。